

徒然草^{つれづれぐさ}

兼好法師^{けんかう}

雪のおもしろう降りたりし朝^{あした}

雪のおもしろう降りたりし朝、¹人のがり言ふべきことありて、文をやる
て、雪のこと何とも言はざりし返事^{かへりごと}に、「この雪いかを見ると一筆^{ひとふで}のたまは
せぬほどの、ひがひがしからん人の仰せ^{おほ}らるること、聞き入るべきかは。返
す返す口惜しき御心^{みこころ}なり。」と言ひたりしこそ、をかしかりしか。

今は亡き人なれば、かばかりのことも忘れ難^{がた}し。

(第三一段)

¹人のがり (ある) 人の所へ。

